

平成 31 年度 「スラブ・ユーラシア地域（旧ソ連・東欧）を中心とした総合的研究」に関わる「共同利用型」の個人による研究 研究報告書

令和 2 年 5 月 6 日現在

研究課題名	近代ロシアの初期語学教育と母国語の形成過程	
申請者	氏名	所属機関・職
	金沢友緒	電気通信大学 講師

研究成果の概要

本研究は近代ロシアの外国語教育の方針と方法が、どのように母国語形成のプロセスと関わっていたのかを明らかにする作業の一環である。研究遂行のために、18 世紀後半から 19 世紀初頭にかけて出版された複数言語併記の百科事典、及びそれに準ずる青少年向けの語学本等を中心に調査し、それらの書籍の特徴と出版の意図を考察した。スラブ・ユーラシア研究センターにおいては「18 世紀ロシア出版物コレクション」の中から当初予定していた «Трехязычная книга...»(1779), «Собрание любопытства достойных предметов для юношества и...»(1796)、さらに本館所蔵(貴重資料室)の «Открываемая Россия...»(1774-1776)を閲覧し、各々の書籍にフランス及びドイツを中心とするヨーロッパの作品の影響が伺える点について調査することができた。なお、「Открываемая Россия」は、ロシアへ招聘されたドイツ人学者によって編纂された衣装集であるが、このカタログ本に詳細なコメントが加えられて後続で出版された «Описание всех в Российском государстве народов...»(1776-1778)との関係についてはさらなる考察を必要とし、今後の課題としたい。

今回の作業を通じてこれらロシアの複数言語併記の書籍の傾向と特徴についての理解を深め、19 世紀にロシア仕様のものへと変化していく同種の書籍との比較材料を得ることができた。

成果の一部については、ロシア・フォークロア研究会及びスラブ・ユーラシア研究センターにおいて発表した。

主な発表論文等（雑誌論文、学会発表、図書 等）※謝辞の有無について明記願います。

研究報告

「近代ロシアと多言語書籍の文化—エカチェリーナ 2 世からアレクサンドル 1 世へ」北海道スラブ研究会（北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター）、2020 年 2 月 14 日。

「挿絵付き図書と 18 世紀後半ロシアの『帝国内諸民族衣装集』」ロシア・フォークロアの会、2020 年 1 月 26 日。

当該研究活動を基に応募中の研究プロジェクト（科研費等）

「近代ロシアの初期語学教育における多言語併記百科事典の役割」平成 31 年度松下幸之助記念志財団研究助成、2019 年 10 月-2020 年 9 月。

※枠を調整することは構いませんが、ページは追加しないでください。